

# ＝ 普 及 情 報 ＝

No. 1

令和8年5月7日

東部農林水産振興センター出雲農業部

標 題	出雲市で担い手の確保・育成に向けた水稻栽培研修会がスタート ～新たな試みで28名の多様な担い手が誕生の予感！～
-----	--

(ダイジェスト)

当管内では、農業法人等担い手の規模拡大が進む一方で、担い手の多くは後継者問題や労働力不足を抱えています。また、特に中山間地域では、高齢化や農家戸数の急激な減少により農地の維持が危惧されています。

こうした中、地域農業再生協議会等関係機関で協議を重ね、多様な担い手の確保・育成に向けた水稻栽培研修会が4月から始まりました。この研修会は、座学1回と基幹作業の実習4回で構成されますが、目標とした定員に概ね達する応募があり高い関心を感じました。

この研修会は、出雲市及び斐川町の両地域農業再生協議会の主催により、関係機関と生産者が連携して行い、水稻栽培の基礎知識を学ぶ座学と、生産者が講師となりそのほ場で耕起や田植、稲刈り等基幹作業を学ぶ実習で構成されます。また、平日は仕事のある方々も参加しやすいように土曜日の午前中に行われます。

〔出雲地域「水稻栽培研修会」 受講者17名（東部・西部の2会場）〕

- 目的 農家戸数の減少や高齢化により農地や技術の継承が危惧されており、対象者は経営継承者や定年帰農者、集落営農組織の後継者等幅広く呼びかけ
- 特徴 実習は、後継者の育成を実践している集落営農2法人のほ場で行う。不足する内容は、市アグリビジネススクールの農業基礎講座を紹介する

〔斐川地域「大人のあぐり探検隊（水稻栽培講習会）」 受講者11名〕

- 目的 集落営農組織の後継者確保を目的に、各組織における経験の浅い構成員に呼びかけ、水稻の生理・生態を始め、「何故その作業が必要か、作業のポイントはどこか」を理解し、各組織に持ち帰り実践してもらう
- 特徴 実習は農業法人のほ場で、機械操作の他、JA農機部門より日常点検や農作業安全も学ぶ。ほ場には、植付深度や本数、栽植密度による生育等の違いを観察できる試験区を設置する

当農業部では、農産担当者が分担して全会場に出席し、座学での講義や、実習での各作業の勘所を丁寧に説明するとともに、会話を交えて水稻栽培の楽しみや面白さを伝えたいと考えます。

また、研修を通して、農業法人等が抱える後継者問題や労働力不足の解決に向けて、就農希望者と法人のマッチングや就農モデルを作成する等、地域が必要とする多様な担い手の確保・育成を模索していきます。



写真 「組織での作業を始めたばかり」と自己紹介する受講者